

デジタル・防災技術ワーキンググループ 未来構想チーム (第4回) 議事要旨

1. 日時

令和3年5月19日(水) 16:30~17:30

2. 出席者

安宅座長、池内委員、臼田委員、大木委員、北野委員、高嶋委員(五十音順)

関係省庁〔内閣府(経済社会システム担当)、内閣府(科学技術・イノベーション担当)、総務省(大臣官房企画課)、総務省(自治行政局 住民制度課 デジタル基盤推進室)、消防庁(国民保護・防災部 防災課)

赤澤副大臣、青柳政策統括官(防災担当)、村手官房審議官(防災担当)、内田官房審議官(防災担当)〕

3. 議題

- (1) 開会挨拶
- (2) デジタル・防災技術 WG 未来構想チーム提言(案)について説明
- (3) 質疑・意見交換
- (4) 閉会

4. 議事要旨

冒頭、赤澤副大臣から、「我が国では「防災・減災、国土強靱化新時代」を迎えたと謳ってよい環境。「デジタル防災」については、菅政権の重要政策の大きな柱の一つとして「デジタル社会の実現」が掲げられ、本年9月にはデジタル庁が発足し、個人情報保護2000個問題の解消が決定し、「デジタル防災新時代」を迎えたとと言える。」「遠い未来からバックキャストをして、電気・通信の強靱性を高め、デジタルを極限まで活用した真に先手を打つ災害対応と絶対的な行政機能の堅持が必要である。」旨の挨拶があった。

続いて、デジタル・防災技術 WG 未来構想チーム提言(案)について事務局より説明があり、各委員からは以下の意見等があった。

- 「リアルタイムの情報共有」の具体的なイメージとしては、俯瞰的な視点で被災状況や各部隊の動きなどをリアルタイムで三次元的にリアルに把握することができるシステムである。
「被災時の先読み能力を高める」について付け加えたいのは、過去の災害教訓を生かして自治体首長の判断をAI等で支援する仕組み。また、被害予測については、直接的な被害だけでなく二次災害・三次災害へと拡大していく状況もリアルに見せることができるようなシミュレーションができるようにしたい。

- 「被災時の先読み能力を高める」において、デジタルツインとシミュレータで可視化する影響に、「人への影響」と「お金への影響」も加えたい。また、実際の防災実務を担う職員がシミュレーションをしっかりと使って、自らの能力向上を行うということ、つまり、「人的資源の能力向上に役立てる」を入れたい。
- 東日本大震災のときには、がれきの除去や遺体の火葬などで、法的整備が必要なものがあつた。この提言のアクションがうまくいくために必要な法的整備についても考えておくべき。
- シミュレーションは、多くのシナリオで行い、その結果を政策や法体系に反映することが必要。発災後にどのシナリオで進んでいるかによって、先読みした政策判断を行うことができる。ロジスティックスについて言えば、事前の準備が90%であり、どれだけシミュレーションにより事前に準備できるかがポイント。
- デジタルが充実した未来においてもデジタルが全てを助けてくれるわけではなく、市民の防災意識の醸成は必要。行動変容を迫るのではなく、日頃から身の回りの危険に目を向けたりして、災害を自分事化して捉えることができるようになるデジタルデバイスにより、意識しないで防災意識を醸成できるような社会が良い。

その後、提言（案）は大筋了承され、最終的な文言の詳細は座長一任となった。